

特集

中長期的視点から 災害時保健活動を 再考する

東日本大震災の健康への 影響と保健活動の展開



東日本大震災から7年、被災者支援の取り組みや、さまざまな研究が継続して行われ、中長期にわたる災害時保健活動に関するエビデンスが積み上がるとともに、さまざまな実践知が災害時保健活動に反映されてきた。それらの取り組みや研究を紹介し、中長期的視点を持って災害時保健活動を展開する意義や、実践知を継承した支援体制づくりについて、あらためて考える。

- 東日本大震災後の中長期視点での災害時保健活動の再考
- 岩沼プロジェクトで明らかになった被災高齢者の
中長期的な社会生活と健康 地域の保健師に求められるもの
- 災害の子どもへの影響と中長期を見据えた心のケア
- 福島県の被災者支援の現状
町の一部が避難指示解除された浪江町の保健師活動から
- みなし仮設住宅入居者健康調査から考える
被災者支援のあり方について
- 兵庫県における被災地支援の体制づくりと保健活動の継承
- いつかの「その時」のために！ 熊本地震への派遣活動を通じて

※関連する特別記事「これからの災害保健医療活動における保健所の役割と研修のあり方」も掲載